

Title	計画:3-1 ニホンザルコドモのけんかに見られる社会的状況と第三者に対する認識(III 共同利用研究 2.研究成果)
Author(s)	浜井, 美弥
Citation	霊長類研究所年報 (1994), 24: 57-57
Issue Date	1994-11-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/164599
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

で寿命はあまり変わらないのではないかという点
が、次第に明らかになりつつある。今後精度をさ
らに高めるための調査を続行する予定である。

体の大きさについて、外見上からは、金華山の
サルは、同緯度内陸部のサルに比べて明らかに小
さい。しかし、どの位小さいかは、捕獲調査が現
段階では不可能なので調べる手段がなかった。幸
い金華山のサルでは、収集した46頭分の骨格標
本がある。一方内陸のサルでは、猿害によって射
殺され埋められた死体のあることが判明し、今年
度オトナのオス3体を発掘した。今後、7体はな
んとか発掘し、比較調査する予定である。

金華山のサルの生態学的特性に直接的に関係し
ているにちがいないサルの食物という観点からの森
林の生産量についても、シード・トラップ法等を
用いて継続してデータを収集中である。

計画：3-1

ニホンザルのコドモのけんかに見られる社会的
状況と第3者に対する認識

浜井美弥（財団法人日本モンキーセンター）

平成5年7月7日～13日、10月20日～2
8日の2回、地獄谷野猿公苑（長野県）において
フィールド調査を行い、志賀A1群のニホンザル
が餌場にいるときに起こったけんかの音声を録音
し、同時にそのけんかの勝敗、攻撃の程度、特に
コドモが関わった場合は親など周囲の血縁個体の
反応を記録した。実際に身体接触を伴うような攻
撃を受けている間に発している悲鳴と、その後、
周囲にアピールするように派手に鳴きだしている
音声は異なっており、現在、特に後者の音声の長
さや頻度について、その母親の順位や周囲の状況
との関わりを分析している。また、高順位家系の
コドモは、攻撃を受けていないような状況でも悲
鳴のような声をあげることがあり、そのときの音
声は、アピールする音声と威嚇の入り交じったも
のであった。

計画：4-1

社会的ネットワークをもとにした霊長類の社会
構造の種間比較

広谷 浩子（神奈川県立博物館）

霊長類は様々な大きさのグループを持ち、社会

構造多岐に及んでいる。この多様性を簡単な指数
で表し、脳の構造をはじめとする形態の進化や生
態学条件と関連づけて調べることは霊長類社会の
進化を解明するために重要である。本研究は、誰
が誰とつきあうかという社会的ネットワークに着
目して、ネットワークの大きさや密度、形、性別
による参加様式の違い等を定量化し、各種および
各属の社会性を表す指数を得ることを目的とする。
グループ飼育されているさまざまな種を対象にグ
ルーミングのネットワークを記録した。それと共
に文献からのデータもととりあげ分析した。

今回は*Macaca*を中心に観察及びデータ解析を
行った。加えて、それ以外のオナガザル科の種や
新世界ザルについても予備的観察を行った。結果
は以下のとおりである。

1) *Macaca*のデータ解析

グルーミングの行われた dyad の総数や各個体
にとつてのグルーミング相手数の群れ平均をグルー
プサイズに対してプロットした。ボンネットモン
キーやチベットモンキーではグループサイズが大
きくなると、これらの値はニホンザルに比べてか
なり急な上昇を示した。ニホンザルとボンネット
モンキー・チベットモンキーとのコントラストは、
グルーミング相手数における性差でも認められた。
ニホンザルでは相手数がオス>メスになっている
のに対し、ボンネットモンキー・チベットモンキー
ではメス>オスであった。このような傾向が
*Macaca*内の社会変異とどう関連するのか興味深い。

2) *Macaca*以外の種の予備的観察

社会関係の種間比較にとってグルーミングが必
ずしも適当な行動とは限らない。たとえば、リス
ザルは*Macaca*同様に複雄群をつくるが、観察中
にグルーミングをほとんど行わず、尾を肩にかつ
いで体を接触させてすわることが、重要な親和的
行動のひとつであった。社会性の尺度としてどの
行動を選ぶかは、広範な種間比較をする際に検討
すべき重大な問題であろう。

計画：4-2

動物社会の変異及び定量化に関する研究

広谷 彰（京都大学霊長類研究所）

脳構造の進化にともない個体認知能力が増し、
これが動物の社会性の進化に影響したという仮説
にもとづき、いくつかの種間比較研究がおこなわ